

■-----  
日本学術会議主催学術フォーラム「アジアのメガシティ東京 その現状と日本の役割」の開催について（ご案内）  
-----■

- ◆日時 平成 27 年 7 月 11 日（土）13:30～17:30
- ◆場所 日本学術会議講堂
- ◆主催 日本学術会議
- ◆後援 日本経済学会、日本都市社会学会、東京都環境科学研究所、  
政策研究大学院大学、一橋大学大学院社会学研究科
- ◆開催趣旨

アジアの成長を象徴するのがメガシティ（1000 万人以上の大都市）です。中国では大都市の創成が国策として展開され、今後規模も数も急速に増加するものと予想されます。他のアジア諸国もメガシティ作りを競っています。そのなかで、東京は、欧米で大都市が出現したのとほぼ同じ時期にメガシティとなり、経済成長にともなって直面した交通混雑、水不足、大気や水質汚染、住宅不足等を次々に克服してきました。長期の歴史で見ても、江戸幕府の成立以降、明治維新、関東大震災からの復興、戦後復興にともなう東京府の廃止など、何度かの大きな転換点に最新技術の投入と制度設計が行われ、意思決定や資源分配の制度が徐々に成熟してきたと言えるでしょう。本シンポジウムでは、人文・社会科学の視点からアジアのメガシティ東京の経験と現状を整理して、それが日本とアジアの将来に示唆するものを探ります。

報告は、東京の現状を大都市のグローバル・ヒストリー、人口動態、とくに少子高齢化の視点から論じるものと、重要課題である災害に対する市場と行政の対応について論じるものを 2 本ずつ用意しました。

パネル・ディスカッションでは、アジアの視点を加え、議論を広げたいと思います。

◆次 第

13:30-13:35 開会挨拶

杉原 薫（日本学術会議第一部会員、政策研究大学院大学特別教授）

13:35-13:45 問題提起

青木 玲子（日本学術会議第一部会員、九州大学理事・副学長）

13:45-16:05 講演

司会：山本 眞鳥（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部教授）

「メガシティ東京の過去・現在・未来ー都市比較から考えるー」

町村 敬志（日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）  
「進展する東京集中と経済成長の特徴」

梅溪 健児（政策研究大学院大学教授）

「地震リスクと防災政策－日本の住宅市場と家計行動の観点より－」

瀬古 美喜（日本学術会議連携会員、武蔵野大学経済学部教授）

「気候変動適応策－持続可能でレジリエントな都市に向けて－」

市橋 新（東京都環境科学研究所主任研究員）

16:05-16:15 休憩

16:15-17:25 パネル・ディスカッション

青木 玲子（司会）、町村 敬志、梅溪 健児、瀬古 美喜、市橋 新、

丸川 知雄（東京大学社会科学研究所教授）、

中野 聡（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）

17:25-17:30 閉会挨拶

広渡 清吾（日本学術会議前会長・連携会員、専修大学法学部教授）

■ 参加費：無料

■ 定員 300名

■ 問合せ先（下記へご連絡ください。）

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-2-2-34

電話：03-3403-6295 FAX：03-3403-1260

E-mail：p228@scj.go.jp

-----  
■ 日本学術会議 中部地区会議学術講演会

「日本海地域の未来」の開催について(ご案内)

----- ■  
◆日時：平成27年7月17日（金）13：00～16：00

◆場所：富山大学五福キャンパス黒田講堂会議室  
（富山市五福3190番地）

◆主催：日本学術会議中部地区会議

◆共催：富山大学

◆後援：富山県

◆次第：

挨拶

遠藤 俊郎（富山大学長）

高橋 雅英（中部地区会議代表幹事）

科学者との懇談会活動報告

丹生 潔（中部地区科学者懇談会幹事長）

講演

「国土計画と日本海地域－過去、現在、未来」

大西 隆（日本学術会議会長）

「日本海の生い立ちと海底資源」

竹内 章（富山大学大学院理工学研究部教授）

「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）とフランス

～本学附属図書館「ヘルン文庫」からみえてくるもの」

中島 淑恵（富山大学人文学部教授）

閉会

松井 三枝（富山大学大学院医学薬学研究部准教授）

■ 入場無料 どなたでも参加できます。

■ 詳細はこちら

<http://krs.bz/scj/c?c=239&m=22945&v=19e0f7ee>

■ お問い合わせ先：日本学術会議中部地区会議事務局

（名古屋大学研究協力部研究支援課内）

TEL：052-789-2039 FAX：052-789-2041

富山大学研究振興部研究振興課

TEL：076-445-6387 FAX：076-445-6033

■-----  
お知らせ：英国王立協会 前副会長メモリアルファンドの創設

-----■  
日本学術会議とは、ICSU（国際科学会議）や IAP 等の国際学術団体等の活動をと  
おして深いつながりがある、英国王立協会の前副会長 ローナ・キャセルトン先  
生のメモリアルファンド創設のお知らせが届きました。

ご関心がおありの方は、以下のサイトにて詳細をご覧ください：

<http://krs.bz/scj/c?c=240&m=22945&v=48a38f71>

連絡先：Dr Jo Ashbourn

Senior Tutor & Tutor for Admissions,

St Cross College,

Oxford OX1 3LZ

[joanna.ashbourn@stx.ox.ac.uk](mailto:joanna.ashbourn@stx.ox.ac.uk)

公開シンポジウム「人文・社会科学と大学のゆくえ」の開催について（ご案内）

◆日 時：2015年7月31日（金）14：00～17：00

◆場 所：日本学術会議 講堂

◆主 催：日本学術会議 第一部

◆開催趣旨：

文部科学大臣は去る6月8日、各国立大学法人に対して、「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」の通知を行ないました。そこでは、国立大学法人の組織の見直しにさいして「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする」とされています。このことがわが国における人文・社会科学のゆくえ、さらには国公立を問わず大学のあり方全般にどのような影響を及ぼすか、

また今後、人文・社会科学はいかにあるべきか、どのような役割をはたすべきかについて、緊急に討論を行ないます。

日本学術会議の会員・連携会員、大学関係者のみならず、この問題に関心をお持ちのメディアや市民の皆さまのご参加をお待ちしています。

◆次 第：

14：00 趣旨説明

小森田秋夫（日本学術会議第一部会員・第一部長、神奈川大学法学部教授）

14：10 問題提起

酒井 啓子（日本学術会議連携会員、千葉大学法政経学部教授、地域研究）

久保 亨（日本学術会議第一部会員、信州大学人文学部教授、史学）

三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学研究院生活環境科学系教授、法学）

本田 由紀（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授、社会学）

須藤 靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科教授、物理学）

15：00 全体討論

司会

杉田 敦（日本学術会議第一部会員・第一部副部長、法政大学法学部教授）

16：50 全体討論のまとめ

井野瀬久美恵（日本学術会議第一部会員・副会長、甲南大学文学部教授）

17:00 閉会

※事前申込不要、入場自由、聴講無料※

※問合せ先：日本学術会議事務局

審議第一担当 金西、石部

E-mail : scj251@cao.go.jp

■-----  
公開シンポジウム「震災復興の今を考える：こども・文化・心をつないで」  
の開催について（ご案内）  
-----■

- ・日時 平成27年8月10日（月）13:00～17:00
- ・場所 福島市AOZ（福島市役所アクティブシニアセンター・アオウゼ）内  
多目的ホール（MAX ふくしま 4階）
- ・主催 日本学術会議 第一部
- ・共催 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
- ・後援 科学研究費基盤研究S「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」、  
公益財団法人日本学術協力財団、日本宗教研究諸学会連合

・開催趣旨 日本学術会議は、3.11以来、震災と原発事故、防災と減災、復興の方法など様々な課題と取り組んできたが、科学への信頼の回復をはじめなお多くの課題をかかえている。人文社会系の研究者で構成する第一部も、公開シンポジウムの開催や福島訪問を含め、継続的に取り組んできた。しかし一方で、震災の風化が始まっていることも事実である。

そこで、第一部は昨年10月に発足した第23期では、所属会員の半数が交代したことを踏まえ、現実を直視しながら、復興にむけて何ができるかを人文社会系の立場からあらためて考えようという趣旨から、最初の夏季部会を福島で開き、「震災復興の今を考える」というテーマで公開シンポジウムを開催することとしたい。これを機会に人文社会系諸学の新たな展開を図るという意図から、今回は、これまで我々が取り上げてこなかった被災地における子どもの教育、文化資源の保護と活用、被災者の心のケアなど、いずれも人文社会系の特性にかなったテーマで行うこととする。シンポジウムではこれまでこれらの活動に取り組んでこられた方々のお話を伺うことにより、市民と会員がともに考える機会となることに期待したい。

・次 第

12:30 開場

13:00～13:15

趣旨説明 小松 久男（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学大学院総合国際学  
学研究者特任教授）  
開会挨拶 中井 勝己（福島大学学長）  
大西 隆（日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

13:15～13:55

基調講演「生活の回復に向けた住民の実態と課題」

今野 順夫（ふくしま復興支援フォーラム代表、福島大学名誉教授）

13:55～14:00 休憩

14:00～15:30 個別報告とコメント

報告1「子ども支援を通して見えてきたこと」

本多 環（福島大学特任教授・うつくしまふくしま未来支援センター  
子ども支援担当）

コメント 志水 宏吉（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

報告2「文化財救援活動をつうじてみる福島の復興と課題」

菊地 芳朗（福島大学行政政策学類教授・うつくしまふくしま未来支援  
センター歴史資料担当マネジャー）

コメント 高埜 利彦（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）

報告3「ほつれる心：いわき市の母親・川内村の高齢者・郡山市の教会」

川上 直哉（日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師、NPO 法人被災支援  
ネットワーク「東北ヘルプ」事務局長）

コメント 岡田真美子（日本学術会議第一部会員、中村元記念館東洋思想文化研究所  
研究員、兵庫県立大学名誉教授）

15:30～15:45 休憩

15:45～16:50 パネル・ディスカッション

パネリスト：

今野 順夫（福島復興支援フォーラム代表、福島大学名誉教授）

本多 環（福島大学特任教授・うつくしまふくしま未来支援センター  
子ども支援担当）

菊地 芳朗（福島大学行政政策学類教授・うつくしまふくしま未来支援  
センター歴史資料担当マネジャー）

川上 直哉（日本基督教団仙台北三番丁教会担任教師、NPO 法人被災支援  
ネットワーク「東北ヘルプ」事務局長）

司 会 山川 充夫（日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部地域経済学科長・教  
授）

16:50～17:00

閉会挨拶 中田 スウラ (福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長・  
人間発達文化学類教授)

(事前申し込み不要：参加自由：参加費無料)

※問合せ先※

福島大学：

E-mail：r689@ipc.fukushima-u.ac.jp

TEL：024-504-2831

---

日本学術会議ニューズメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

---

発行：日本学術会議事務局 <http://krs.bz/scj/c?c=227&m=22945&v=b92dae68>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34